

論 文

教員の属性と求めるリレーションシップ、 教育方法

藤田 三恵・坂井 恵子*¹・窪 のり子*¹

古保 志保*²・杉本 博子*³・稲垣 美智子*⁴

こまつ看護学校 *¹石川県立総合看護専門学校 *²石川県厚生部

*³石川県立高松病院 *⁴金沢大学医学部保健学科

How Teachers Can Learn New Methods of Educating Nursing-Patient Rapport

Mitsue Fujita, Keiko Sakai*¹, Noriko Kubo*¹,
Shiho Kobo*², Hiroko Sugimoto*³ and Michiko Inagaki*⁴

Komatsu Nursing School

*¹Ishikawa Prefectural School of Nursing and Public Health Nurses

*²Ishikawa Prefectural welfare part

*³Ishikawa Prefectural Takamatsu Hospital

*⁴School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University

要 旨

看護基礎教育において看護学生に対人関係能力としてのリレーションシップを育成することは重要な課題であると考えられる。対人関係能力を育成する側の看護教員の資質が学習者に与える影響は大きいと思われるが研究報告はほとんどない。そこで、県内の看護基礎教育機関の全教員134名を対象として、臨地実習において看護教員の属性と看護学生に求めるリレーションシップの関係及び、看護教員の属性と教育方法の関係を明らかにすることを目的に調査を行い以下の結論を得た。

1. 看護教員が学生に求めるリレーションシップは高い。
2. 看護教員の臨床経験年数が高くなると求めるリレーションシップは低くなる傾向にある。
3. 臨地実習における教育方法は教員の年齢・臨床経験年数による差異はみられない。
4. 上司からの指導、教員養成講習の受講は臨地実習での教育方法に違いをもたらす。

以上より、臨地実習において看護学生のリレーションシップを育成するための教育方法は教員としての専門的指導を受けることにより変化することが示唆された。

キーワード

対人関係能力, リレーションシップ, 看護学生, 看護教員, 教育方法